

戦前期

昭和元(1926)年～昭和12(1937)年頃

関東大震災の大損害から立ち上がる

昭和の時代が幕を開けたのは、未曾有の被害をもたらした関東大震災から3年後のこと。

神奈川県西部を震源とした関東大震災では、当時の震度階級で最大の震度6を観測した揺れが神奈川県のほぼ全域を襲い、多くの地域が壊滅的な被害を受けました。

昭和元年の神奈川県は、土地の区画整理や道路の改修など、復興への道のりを歩みはじめたところでした。

県議会議員選出で初の普通選挙が実現

明治時代から大正時代に行われていた選挙では、一定額以上の納税をしている満25歳以上の男子にしか選挙権は与えられていませんでした。

しかし、大正デモクラシーの勢いに乗って普選運動が盛り上がりを見せ、大正14(1925)年には法律が改正されました。これによって、昭和3(1928)年に実施された神奈川県議会議員選挙では納税要件が撤廃され、有権者が大きく増加しました。

地域の強みをのばしていく

昭和のはじめ頃には、現代にも通ずるような地域の特色が生まれ始めていました。

たとえば、横浜や川崎といった京浜地域は、大量消費地である東京と距離が近く、交通の便がよかったので、工場の建設地として注目されていました。

また、相模湾沿いを中心とした湘南地域は、自然や社会的条件に恵まれて、住宅地、観光地、保養地として人気が出ていました。

県では、そういった地域の成長を支え、県民の方々の生活をより良くする施策を展開していきました。



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ